

# Gマーク・安全運行支援特集

北海道フーズ輸送(渡邊英俊社長、札幌市西区)は、昨年度初めて全国的に実施された「Gマークの認知に向けたラッピングトラック走行」の協力会社社に選定された。

ラッピングトラックの協力会社は、この時点で北海道では3社で、地元ト協の職員は、「安全教育が優れ、クレームが出ておらず、日頃見かける走行状況の安全性などを基準に選定された」と説明。Gマークを取得している道内の運送会社の中でも「特に安全性に優れている」という評価を受けた結果といえ

## 北海道フーズ輸送 ラッピングトラック走行に協力



同社は2005年12月にGマークを取得。デジタコやドラレコなどの機器を積極的に導入し、運行データを分析・社員教育に生かしている。このほか、運輸安全マネジメントを導入し、質の高い輸送業務を継続している。(玉島雅基)

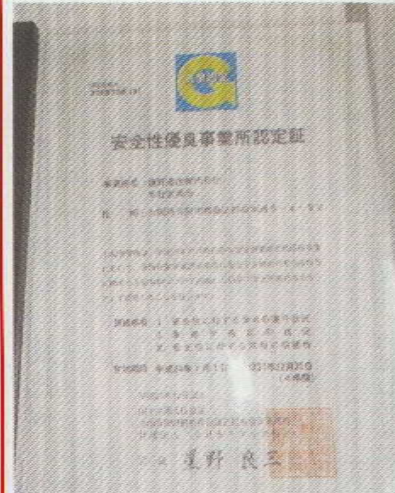
川村社長によると、デジタコ導入をはじめ、安全への意識が高まっていたことから、Gマークは難なく取得できたという。ただ、当初はGマークの効果は行政へのアピール程度と認識していた。し

# 営業ツールの一つに

## 越野運送

越野運送(越野泰弘社長、大阪市都島区)はGマークを取得して約10年が経過した。

同社は、Gマーク取得以外にも取得できる認証制度はすべて取得する考え。PDC Aサイクルを活用し毎年、見直しを



しながら目標数値を立て、従業員への徹底した教育で意識改革にも取り組んできた。

また、安全だけでなく品質と環境対策に対応できるマニュアルを独自で作製した。越野社長は「全員の意識とレベルが

非常に高い。従業員のレベルを確認できるのが第三者機関からの評価だと思っていて」と説明

する。

認証の取得は荷主企業からの評価も高く、営業ツールの一つにもなっている。「今後もトラックを使用して仕事をしていく上で安全と環境対策に厳しく取り組んでいく」と話す。(中村優希)

## マルシン商事 荷主の反

### デジタコ導入

マルシン商事(川村紀男社長、千葉県八千代市)では、6年前にデジタコを全車に導入した。デジタコは会社側の管理強化という側面もあり、場合によってはドライバー側の抵抗も予想される。そのため、同社では点数を評価に加えないなど、初めからデジタコ導入の効果を求めずに、まずはデジタコに慣れることからスタートした。それが奏功し、同社のトラックはデジタコ導入が当たり前となった。そして4年前、Gマークを取得した。